

「出張講義概要一覧」(国際教養学科)※2025年4月英語コミュニケーション学科より名称変更予定

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
Use Your Head	デイヴィッド・コージー (コミュニケーション論・アメリカ文学)	英文を読んだり、英語の音を聞き取って理解するには目や耳を使いますが、それだけでは十分とは言えません。何より大切なのは頭を働かせてよく考えることです。この授業では、目や耳や頭を駆使して英語をしっかりと理解する方法を学びます。授業は英語です。
ことばの探究とは？	井原 奉明 (言語学・哲学)	世界では、異なる特徴を持つ数多くのことばが話されています。ことばはどのように探究すればよいのでしょうか？音や文法、意味について、英語の具体例を通し、グループワークをしながら一緒に学んでみませんか。
英語の動詞	鈴木 博雄 (理論言語学・英語学・英文法論)	英語の自動詞と他動詞の本質的な違いについて考えます。特に、他動詞が細分化されることについて説明し、受動態を作ることが可能な動詞の条件を求めます。さらに、他動詞の定義が理解できていれば、授与動詞が関係する第3, 4文型の違いについても理解し易くなることや句動詞(phrasal verb)の種類とその学習法についても触れ、英語研究の魅力の一端をお伝えします。
女性の社会的地位と衣衣装	金子 弥生 (イギリス文学・文化)	19世紀のイギリスでは、「家庭の天使」が女性の理想像とされ、女性たちの行動にも制限がありました。女性の衣装が変化するとともに、彼女たちの行動にも変化が現れました。いくつかの文学作品を取り上げ、その変化を考察します。
リアルとデジタルのあいだ	菅野 遼 (メディア論・修辞学)	現実世界と電子記号数列の距離は大きいようにも小さいようにも感じられます。いくつかの現代的なメディア装置や映画、絵画や文学作品を分析しながら、このリアルとデジタルの距離について考えてみませんか。
英語でセリフを読んでみる	米谷 郁子 (イギリス文学・演劇)	平易な英語で書かれた演劇作品のセリフを繰り返しゆっくり音読練習しながら、心と体を動かして、言葉との新たな出会いを共にさぐってみましょう。演劇経験や演技力は不要です。
英語で世界の人たちとコミュニケーションしよう! - 英語教育学と第二言語習得研究から考える -	森 博英 (英語教育学・第二言語習得論)	グローバル社会をよりよく生きるための英語力とその英語力を身につけるための効果的な英語学習法を紹介します。
アメリカの人種差別について	池田 陽子 (文化人類学)	アメリカの人種差別について、その歴史や現在の問題について人類学の視点から考える授業です。
Expressing Your Opinion Clearly in English	マッカーシー ジョン (コミュニケーション論・英語教育)	このレッスンでは、自分の意見を述べたり、他の人の意見にコメントしたりする際に役立つ用語や会話ストラテジーを学びます。自分の意見を述べ、例を挙げてその意見を裏付ける練習をします。また、発音の練習も行います。
「よく語ること」について考える	小西卓三 (コミュニケーション研究)	今世紀の#MeToo運動に見られるように、公的空間での言論は、現代メディアテクノロジーの影響を受け大きく変容しています。この授業では、現代で「よく語ること」をどのような理論的な視座から説明できるのか、皆さんで考えていきましょう。

「出張講義概要一覧」(国際日本学科)※2025年4月新設予定

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
英語を習得するとは？	高味 み鈴 ((児童)英語教育)	英語はどの様に習得されるのでしょうか。この疑問について考えてみると、皆さんにとっても効率的な英語の学習方法が見つかるかも知れません。少しでも言語習得の分野を学んでみませんか。
日本のものづくり文化	重松 優 (日本研究・日本歴史論)	皆さんは日本の社会と文化の特徴、その優れた点と欠点について、はっきりと意見を述べることができますか。この授業では、日本のものづくり文化の特徴である「シンプルさ」のルーツを、茶道、民芸運動、国際比較を通じて考えます。
西洋起源のことわざ	鈴木雅子 (言語文化学)	「時は金なり」「転がる石には苔が生えぬ」ということわざを知っていますか？まるで日本古来の表現のようですが、いずれも英語から日本語に入ってきた表現です。どのように日本で受け入れられたのか、その起源をたどってみましょう。
世界中の「女性のエンパワメント」 という言葉を探る	Kristie Sage (外国語としての英語教育 (TEFL・応用言語学))	女性のエンパワメントという用語に関連する、さまざまな国の3つのオンライン ニュースの例を比較対照してみましょう。
国際観光ビジネス論 - 感動を演出する！国際観光のお仕事 -	高橋 修一郎 (観光キャリア教育・キャリア教育)	旅の価値はコロナ禍により見直され、人生の豊かな価値であることが再認識されました。観光産業には、ホスピタリティ溢れる観光人財が必要です。本講では、観光ビジネスの魅力を理解し、観光人財の資質を育みます。(※校外学修東京ディズニーリゾート研修の事前学修にも対応可能です)
高校生のキャリアデザイン - 社会で活躍するための魔法の言葉 -	高橋 修一郎 (観光キャリア教育・キャリア教育)	皆さんは人生の岐路にいます。AI(人工知能)の進歩は、職業が様変わりする可能性があります。本講は、変革激しい社会で、自分のキャリアを描く術を理解し実践します。将来の糧となるよう楽しく学んでいきましょう。

「出張講義概要一覧」(国際学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
漢字と「中国語」の違い	フスレ (中国語・東アジア国際関係史)	漢字は「文字」であり、ことばではありません。ことばの背景にある文化にふれながら、日本人と中国人の思考や行動様式、価値観の違いなどを考察します。それによって、どのような興味深い発見があるかを楽しみましょう。
ジェンダーとエスニシティ	川畑 由美 (アメリカ文学・ジェンダー研究)	ジェンダーやセクシュアル・ハラスメントは一般的な文脈でもよく目にするようになった。短編小説を読みながら、19世紀のアメリカにおけるジェンダーや人種について学びます。
「国際英語」って何？	柏木 厚子 (英語教育・応用言語学)	現在、英語は国際コミュニケーションのツールとして広く非母国語話者の間で使われています。このアメリカ英語でもなくイギリス英語でもない「国際英語」について発音を例にとりて説明します。
異文化コミュニケーション・ワークショップ	柏木 厚子 (英語教育・応用言語学)	文化背景の異なる人々とコミュニケーションをするための第1歩は「あれっ」と思う気付きです。具体的な事例を通じて頭のエクササイズをしましょう。
移民と言語	李 守 (朝鮮語学・社会言語学)	人口が減少に転じた日本は移民の活力を必要としている。日本経済をささえる労働力として期待される移民は、異言語・異文化の担い手でもある。かれらと共存するため日本社会はなにを求められるのか？ 考える糸口を提供します。
スイスってどんな国？スイスの民主主義	寺島 政子 (ドイツ語・ドイツ文学)	ドイツ語圏の一つであるスイスは、国名は知られていますが、ではどんな国かと問われたら返事に詰まってしまうのではないのでしょうか。意外と知られていない面が多々あります。ハイジとチョコレート以外のスイスの姿を学びましょう。スイスは永世中立国として平和のイメージが強い、民主主義国家です。一口に「民主主義」といっても各国ごとにさまざまです。バランスを重視した多言語国家スイスの民主主義を学びましょう。
国際協力がってどんなことをするの？	米倉 雪子 (国際協力・開発研究)	発展途上国への国際協力を事例に、どのような協力が現地の人々にとって本当に役立つのか、「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に貢献できるか、一緒に考えてみましょう。
「ハングル」ってなに？	徐 珉廷 (日韓対照研究・認知言語学)	韓国語をまったく知らない学生を対象に、簡単なあいさつからハングルの構造や韓国語の母音について、文化や歴史的な背景をまじえて説明します。
英語でのコミュニケーション	渡邊 知子 (英語教育・応用言語学)	様々な国や地域からの人たちの英語でのコミュニケーションにおいて、どのように英語の表現が使われているのか、文化的背景などによりどのような違いがあるのか、といったことを考えていきます。
言語ってなぜ学ぶの？	小倉 麻由子 (スペイン語教育学・応用言語学)	機械翻訳やChat GPTなどの人工知能技術が進むSociety 5.0を生きる皆さんは、なぜ外国語を学ぶ必要があるのでしょうか？これまでなぜ英語を学んできたのでしょうか？そして今なぜプラスワンの言語が必要なのでしょう？ぜひ一緒に考察しましょう。
アメリカの歴史と政治文化	矢島 宏紀 (アメリカの歴史・思想)	知っているようで意外と知らないことが多い国アメリカ。新しい国のように、いまにつながる政治制度の基本は200年以上前に成立しています。大統領選挙や銃問題を歴史的な視点で考えます。
音韻で楽しむ中国詩歌	張 陵 (文献文化学・日中比較文学)	日本の皆様にも馴染みのある漢詩、難しいイメージはありますが現代中国語で発音すると意外と楽しいものです。抑揚、押韻、平仄のルールに触れながら中国詩歌の魅力をお伝えします。同時に中国人の心性・情緒への理解を深めてみましょう。

「出張講義概要一覧」(ビジネスデザイン学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
投資意思決定の基礎	本合暁詩 (コーポレートファイナンス・国際経営)	企業は日々様々な意思決定を行っており、特に工場建設や事業の買収といった長期的な「投資」は企業の価値に大きな影響を与えます。この意思決定の基本を、数値計算を交えながら解説します。
「デジタル化」の脅威とDX (デジタル・トランスフォーメーション)	馬場康志 (技術経営)	あらゆる情報がデジタル化される中で、もともと同じ業種だったのに、生き残り発展してきた企業と、衰退し消え去った企業があります。デジタル化への対応で両者は何が違ったのか、事例を交えて説明します。
経営戦略論入門	三浦紗綾子 (経営組織論・経営戦略論)	企業が利益を上げるため・生き残るための方法が、経営戦略です。経営戦略とは何かを、身近な例を使って説明します。経営戦略の考え方をを使って、様々な社会現象と一緒に分析してみましょう。
環境と資源の経済学	長屋真季子 (環境経済学)	環境問題への取り組みは経済社会にとって必要不可欠なテーマになりました。経済と環境の両立のためには、私たちはどのような行動をとるべきなのか、経済学の視点から考えてみましょう。
Sustainability and Business	Akiko Imai (政治学・Global Issues)	Using the coffee supply chain as an example, this session will explain how the business community is tackling various social problems caused by global economic activities.
「ビジネスと人権」のグローバル・ガバナンス	今井章子 (政治学・Global Issues)	持続可能な経済社会を実現するために、国際社会や企業はどのような取り組みをしているのでしょうか。児童労働などをめぐる「ビジネスと人権」について見てみましょう。
ビジネスのための異文化理解	浅田裕子 (Linguistics・Japanese・English)	グローバルブランドの広告は、世界共通でしょうか？飲料・化粧品など、身近な商材を取り上げながら、ブランドの国際戦略と各国の文化特性がどのように広告に反映されているかを学びます。
スマートフォンを取り巻くビジネス入門	宮脇啓透 (経営学・情報学基礎論・数理情報学)	身近に使うスマートフォンを取り巻くビジネス環境を理解し、多くの人々が利用するネットショッピングやSNS等のアプリケーションがどのようなビジネスモデルで成り立っているかを学びます。
インバウンドビジネス論	飴善晶子 (経営学・パフォーマンス学)	日本は観光立国を目指してさまざまな施策を行っています。観光立国とは何か、そして、インバウンドビジネスとは何かを事例を使って学びます。
ホスピタリティ・マネジメント	飴善晶子 (経営学・パフォーマンス学)	現在の経済社会において、サービスという概念は第3次産業のみならず取り入れられています。広い意味でのサービスとは、そしてサービス産業といわれる産業の中のサービスとホスピタリティの違いについて学びます。
ヒット商品にはワケがある	薬袋貴久 (マーケティング戦略)	なぜ、あの商品が売れたのか。身近なヒット商品を探り上げながら、製品やサービスが売れる仕掛けづくりとしてのマーケティングについて考えます。
顧客づくりとコアコンピタンス	薬袋貴久 (マーケティング戦略)	顧客に対し、自社ならではの「価値」を生み出し提供することは、マーケティングに求められる大切な使命です。新しいビジネスを創造する際の核となる「チカラ」とは何かについて皆さんと対話しながら考えます。
高い成果を上げるチームの条件	櫻木理江 (組織行動論・マーケティング)	みなさんも、誰かとチームで作業をするという経験があるのではないのでしょうか。「高い成果を上げられるチームにはどんな特徴があるのだろうか」という疑問に、組織行動論の研究をご紹介しますながら考えます。

「出張講義概要一覧」(会計ファイナンス学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
高校生と考える株式投資	山田 隆 (ファイナンス)	元ファンドマネージャーで1人で1,000億円を運用していた大学教授が株価の動きから経済社会を読み解く方法を伝授します。また、金融教育において必要なことを網羅的に学べます。
高校生活とパーソナルファイナンス	関 憲治 (財務管理論)	生活していく上で必要となる「お金」の知識を学びます。特に、今後のライフプランとそれを支える「お金」に焦点を当て、必要な知識を説明した上で、一緒に考えてみます。
簿記会計の魅力と将来性	鈴木 大介 (簿記・会計)	簿記会計を学ぶことは皆さんの将来のキャリアアップにつながります。そんな奥の深い簿記会計の世界を、皆さんに共に見ていきたいと思えます。

「出張講義概要一覧」(日本語日本文学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
古事記の世界 ーヤマトタケルノミコトー	鳥谷知子 (上代文学)	ヤマトタケルノミコトは大和国平定において、悲劇的な最期を遂げ、その魂は白鳥と化して天翔る。東征において倭建を助けるのも死に導くのも、草薙剣であった。悲劇の物語と剣の関わりを考えます。
呼称から読む紫の上	鶴飼祐江 (中古文学)	『源氏物語』のヒロインである紫の上が物語に登場したとき、紫の上はまだ10歳くらいの少女でした。なぜ恋物語のヒロインが少女に設定されたのでしょうか。呼称に注目しながら読み解いてみましょう。
室町時代の流行歌謡	山本晶子 (中世文学)	室町時代の流行歌謡を集めた『閑吟集』の歌を取り上げ、中世という動乱の世に生きた人々の思いを読み解きます。視聴覚資料を用いて、芸能の中で歌い継がれている小歌もあわせて紹介します。
江戸時代の桃太郎	狹原大地 (近世文学)	国民的昔話「桃太郎」。桃から生まれて、悪い鬼を退治して……。でも、江戸時代版「桃太郎」では、桃太郎は桃から生まれえないし、鬼も悪いことをしていない！？ 当たり前を疑うという大学の学びを体験してみましょう。
星新一「味ラジオ」を味わう	笹木美佳 (近代文学)	「ボッコちゃん」の作者、星新一。「オチがあって、おもしろい」と人気です。「味ラジオ」はスマホを超えた最先端ラジオ。でも……。〈おもしろい〉だけではないショート・ショートをたっぷり味わってみましょう。
太宰治「トカトントン」を読む	山田夏樹 (近代文学)	太宰治「トカトントン」では、終戦後の世界で何かを行おうとする度に幻聴に悩まされ、何も出来なくなる青年と、それをたしなめる某作家の姿が描かれます。その構図にどのような意味があるのか、解釈していきます。
樋口一葉の「日記」を読む	吉田昌志 (近代文学)	五千円札の「顔」になっている樋口一葉は、24歳で亡くなる直前まで、詳細な日記をつけていました。この日記を読みながら、若い女性のさまざまな心のゆらぎを見つめてみたいと思います。
子どもの文学を考える	福田委千代 (児童文学)	児童文学は分かりやすくしてハッピーエンドで…そのイメージは本当でしょうか？ 具体的な作品をとりあげながら、子どもの文学はこれまでにどのように変化したのか、どう読めるのかを考えます。
気になる日本語	須永哲矢 (日本語学)	敬語・ら抜き言葉・若者言葉など、日頃ちょっと気になる日本語について、言語研究という立場からの考え方を紹介します。その中で古典文法と現代語のつながりについても簡単に触れ、古典学習の一助としてください。
日本の方言	嶺田明美 (日本語学)	日本は地域によって使われることばが違います。なぜ、地域によって違いがあるのでしょうか。共通語と方言が接触したときにどのような現象が起きているのでしょうか。実際の方言を取り上げながら考えます。
日本語とコミュニケーション	宮崎由美 (日本語学)	私たちは他者と円滑にコミュニケーションをとるため、どのような方法で伝え、どのようなことばを使っているのでしょうか。具体的な場面を想定し、あなた自身や他者のより良いコミュニケーションについて考えてみます。
日本語を外国語として捉える ー授受表現を例にー	植松容子 (日本語教育)	「(私は)Aさんにプレゼントをもらった」と「(Aさんが)私にプレゼントをくれた」の使い分けを聞かれたらどのように説明しますか？授受表現を例に、外国人に教えるための日本語の文法について考えてみましょう。
日本語学習者との会話	大場美和子 (日本語教育)	日本語学習者が日本語で日本人と話す時、何が難しいと感じるのでしょうか。日本人が何に気を付けると学習者は話しやすくなるのでしょうか。学習者との楽しい会話をめざして、日本人の話し方の特徴について考えます。
異文化を学ぶことの意味	池田玲子 (日本語教育学)	異文化理解についてお話しします。日本文化の中では当たり前のことが、外国人にとっては驚きの事実だということがあります。日常の中の異文化トラブルを知り、文化や価値観の違いについて一緒に考えてみましょう。
日本で働く外国人と日本語教育	近藤彩 (日本語教育)	外国人が働く現場を紹介しながら、外国人とのコミュニケーションについてお話しします。経産省等と作成した動画教材を使って、より良いコミュニケーションや日本語教育について考えていきましょう。
図書館情報技術を学ぶ	田中均 (図書館情報学)	電子書籍やオンラインジャーナル、ビッグデータや生成型AIの登場により図書館は激変の時代を迎えています。最新の図書館情報技術の動向を知り、今後の数十年間でどのような姿に成長していくかをいっしょに考えてみましょう。
絵本と読み聞かせの意味と意義	池田美千絵 (図書館情報学)	子どもと絵本の出会いを作るものとして読み聞かせがあります。読み聞かせとは、読み聞かせに適した絵本とは、どのようなものなのでしょうか。実際に読み聞かせを体験しながら考えていきます。いくつかの絵本も紹介します。

「出張講義概要一覧」(歴史文化学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
幕府とは?大名とは?	野口 朋隆 (日本近世史)	江戸時代は、幕府と藩からなる幕藩体制を基本的な枠組みとする社会でした。しかし幕府のなかの将軍や大名はどのような関係にあったのでしょうか。講義では新しい研究成果を踏まえて分かりやすく説明していきます。
デジタルアーカイブで新選組の実像に迫る	三野 行徳 (アーカイブズ学・日本近世史)	新選組局長近藤勇は多くの手紙を遺しており、近年、インターネットでも画像を見ることができるようになりました。近藤の手紙を読み解き、フィクションの世界の新選組とは異なる実像に迫ります。
過去を「体験」しよう	松田 忍 (日本近現代史)	私たちの身体は過去に行くことはできません。しかし残された史料を通じて過去をかいま見ることができます。追体験することもできます。そうですね、さしあたり60年前に行ってみましょうか。この日本列島に私たちの知らない異世界が広がっているはずです。
古くとも新しい西洋	湯上 良 (西洋史)	感染症や戦争・紛争で混迷を深める世界。文字記録が大切に受け継がれてきた西洋には、モノ自体は古くとも、そうした現実に対しても新しい発見がたくさんあります。石板からデジタル文書まで、その魅力を感じつつ、現代や文化について考えてみましょう。
「中華」は世界の中心か?	毛利 英介 (東洋史)	「中華思想」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。「中国は歴史的に自分と対等な存在を認めなかった」とか、「世界の全てを自分のものだと思っていた」とか。本当でしょうか?宋代を例に具体的な史料から考えてみます。
民俗と芸能	大谷津 早苗 (日本芸能史)	日本各地に伝承されている民俗芸能を取り上げ、民俗学や芸能史・宗教史・国文学などと関連させながら、伝承資料としての民俗芸能の特色と価値を考えます。また、芸能表現の背後にある日本人の心意も探してみたいと思います。
発掘から何がわかるか	小泉 玲子 (日本考古学)	考古学の調査研究によって、どのように古代の人々の暮らし(食生活や埋葬など)を復元することが出来るかについて、大学で実施している発掘調査の例を交えて講義します。
江戸の「新しもの好き」たち —西洋画へのあこがれと受容—	鶴岡 明美 (日本美術史)	18世紀後半、江戸時代も半ばを過ぎるころ、オランダや中国といった限られた国々との交流を通じてもたらされた西洋画に魅入られ、その表現に倣って作品を残した画家たちがいました。彼らの努力の跡をたどるとともに、こうした西洋風の画法が当時の人々の好奇心を刺激したことで生まれた、洋風の浮世絵版画についても紹介します。
ルネサンスの壁画を読む	永井 裕子 (西洋美術史)	世界的に有名な壁画《最後の晚餐》について考える授業です。何が描かれているのか、どのように描かれたのか、なぜ傑作とされるのか、絵画作品を読み解いてみましょう。
文化財を科学する	村上 夏希 (文化財保存学)	皆さんは文化財とは何か、日本にどのような文化財があるのかご存じでしょうか。本講義では、文化財そのものについて、そして文化財を科学的に調査研究する文化財保存学について、具体的な事例を交えて紹介します。

「出張講義概要一覧」(心理学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
「見る」の心理学	池上 真平 (認知心理学)	私たちが見ている世界は、本当に「ありのまま」の世界でしょうか？実際に体験しながら答えを探していただきます。
社会心理学の研究とは	清水 裕 (社会心理学)	社会心理学ではどのような研究が、どのような方法で行われているのか、「他者への援助行動」を具体例にして紹介します。
非行臨床心理学	田中 奈緒子 (臨床心理学)	非行に関わる諸機関の役割と心理職の仕事など、臨床心理学の立場から、非行少年への心理的支援について紹介します。非行少年の社会復帰を支える人々の具体例を通じ、社会で何が求められているかを考えてみましょう。
発達障害の心理臨床	松永 しのぶ (発達臨床心理学)	自閉スペクトラム症の子どもたちの心と行動の特徴をみながら、発達障害を理解するための心理学的知見を紹介します。発達の凸凹や特性について一緒に考えながら、心の発達に対する関心につなげていきたいと思えます。
人間の推論の「誤り」と認知心理学	松野 隆則 (認知心理学)	人間の思考能力は素晴らしく見事である。しかし、論理形式や数値情報に関して推論・判断を行う際に、時として論理学や確率論と一致しないことがあります。人間の推論の偏りを示す例を挙げ、認知心理学的に考察します。
心理学から学ぶ、ストレスとの付き合い方	増淵 裕子 (臨床心理学)	同じ出来事を体験しても、ストレスを感じる人と感じない人、ストレスが気持ちに出やすい人と身体に出やすい人など、ストレスの感じ方や表れ方は人それぞれです。ストレスの理解とその付き合い方についてお話します。
自由で楽しい心理学の世界	榊原 良太 (社会心理学)	「人間がかかわることは、全て心理学の研究対象になる」と言えるほど、心理学が扱う範囲は広く、それが心理学の魅力の一つだと思います。講義を通じて、ぜひ心理学の面白さを感じてください。

「出張講義概要一覧」(福祉社会学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
ライフ&キャリアデザインと生活経営	伊藤 純 (生活経営学)	本講義では、人生100年時代の私たちの生活経営上の課題を考え、ライフ&ワークキャリアの観点から必要な社会福祉資源や獲得すべき生活福祉経営能力について考えます。
21世紀に求められるソーシャルワーカー	北本 佳子 (ソーシャルワーク)	少子高齢社会の進展の中で、ソーシャルワークによる支援がますます注目されています。ソーシャルワークを担う専門職であるソーシャルワーカー について、その意義や役割などを多面的に学びます。
がん医療の現在とソーシャルワーク実践	高橋 学 (医療福祉論)	人が『病』を持つことによって体験するさまざまなストーリーを理解し、心の回復や社会的復権を支援する技術について考えます。
敗戦後の子どもたちー 「あの日のオルガン」と児童福祉法	川崎 愛 (児童家庭福祉)	第二次世界大戦の度重なる空襲や原爆の投下により、多くの命が奪われました。戦争で家族を失った戦争孤児がどのように戦後を生きたのか、「児童福祉法」の施行は社会に何をもたらしたのかを考えます。
社会福祉の視点について	李 恩心 (地域福祉)	社会福祉とは何かという問いをたて、社会福祉に関する視点を学び、制度の理解とともに制度の狭間の問題へのアプローチ方法としての地域福祉実践などについて考えます。
日本で暮らす外国人の生存権	奥貴 妃文 (在住外国人の社会福祉)	日本で暮らす外国人は300万人を超えました。しかし外国人は未だに生存権が法的に保障されていません。これからいっそう多民族社会に向かうなか、あるべき社会保障・社会福祉制度とはどのようなものか、考えます。
子どもの健康と保健について -病児保育に携わる保育士の専門性-	向笠 京子 (保健学・看護学)	子どもの支援と援助法について、乳児の援助を中心に理論を学び、演習を通して実践的に学びます。具体的には抱っここの仕方、衣服の着脱、おむつ交換、授乳の仕方、病気や体調不良時の対応について学びます。
障害とは何かを考える	根本 治代 (障害者福祉)	障害をもつ人も、もたない人も互いに支え合う社会が求められています。障害とは何か、障害をもつとはどのようなことなのかを、日常生活を通して構造的に考えていきます。
求められる保育ソーシャルワーカー	山梨 みほ (保育学)	子ども達の発達支援とともに、その家族の支援も求められています。「保育」と通して、親子関係の構築の手助けや育児支援について学びます。
当事者と共に社会を変える ー認知症高齢者と支援者による社会変革ー	熊谷 大輔 (高齢者福祉)	認知症高齢者に関する基本的な理解と具体的なコミュニケーション方法を学び、認知症高齢者と支援者が共に実践する社会変革について映像を通して考えます。
ソーシャルワーカーという仕事の魅力	坂入 竜治 (精神保健福祉)	身近な精神保健の課題を取り上げながら、人と環境(家族・職場・地域社会など)の双方に働きかけ、誰もが生きやすい社会をつくることをめざすソーシャルワーカーという職業の魅力について解説します。
児童福祉施設とソーシャルワーク	渡邊 瑞穂 (児童家庭福祉・社会的養護)	様々な理由で家族と暮らすことができない子どもたちがいます。児童養護施設の支援の実際を事例を通して学び、現代の子どもたちを取り巻く社会問題について考えていきます。
働く女性にとっての育児と介護	増田 裕子 (児童家庭福祉)	働く女性の割合が増加の一途をたどり、家庭を取り巻く環境が大きく変化しています。育児や介護を担う働く女性、そして子ども・家庭を、どのように地域や社会とつなげるか、どのような支援が必要であるかを考えます。

「出張講義概要一覧」(初等教育学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
音楽表現がもつ楽しさと可能性 ー音楽アンサンブルをとおしてー	赤塚 太郎 (音楽教育・ピアノ)	リトミックや、身近な素材・楽器を用いたアンサンブルをとおし、音楽で他者とコミュニケーションを図り、音楽表現の楽しさを感じながら、その可能性を広げてみましょう。
子ども観と教育観の変遷 ー西洋教育史の事例からー	伊藤 敦広 (教育思想史)	私たちにとって当たり前の教育の風景が生まれたのは、人類の長い歴史のスパンで見ると比較的最近になってからのことです。西欧の歴史を事例として、今日の子どもの観・教育観がどのように生まれたかを考えます。
子どもの家庭生活 ー家庭科の役割ー	今井 美樹 (家庭科教育)	子どもにとって家庭はかけがえのないものです。小学校家庭科の学習内容を通して、子どもの家庭生活について知り、家庭科の役割について考えてみましょう。
「能動的な学習者としての子ども観」に 立った学習の構築	岩間 健一 (教育学)	「子ども観」や「授業観」は、保護者や教師等の大人が子どもを指導・支援するときの判断の拠り所になっています。そこであらためて、「子どもとは、本来どのような存在なのか」ということを共に考えていきたいと思います。
子どもの笑顔を支えるために ～乳児保育に必要な養護技術～	遠藤 純子 (保育学)	人生の最初期に自己の存在を受け止められながら育つことは、その後の成長の大きな糧になります。乳児保育に必要な養護技術を学びながら、一人ひとりが大切に育てられるために私たちができることを考えていきましょう。
わくわくしMATH -身の回りの算数・数学-	小林 広利 (算数・数学教育)	わくわくする授業の出発点は子どもの探究心を育てること。身の回りの算数・数学に触れながら考え続けることとは何かを考えていきます。算数・数学の不思議さや美しさを感じながら知の冒険に出かけましょう。
Bostonでの参加・体験型の英語教育実践を!	國分 有穂 (英語科教育)	Bostonの小学校・幼稚園・保育園で英語活動を行う上で役立つ英語指導法をワークショップ形式で学んでいきます。指導の際に必要なClassroom English (教室英語)、現地での観光や視察で使える語彙・表現を身につけながら、英語らしい発音やリズムも身につけていきましょう。
教師という仕事の大切さ ー理科授業を中心にー	白敷 哲久 (理科教育)	授業では子どもの概念形成を促すとともに、心を育てることが大切です。理科の授業において、子ども一人ひとりの見方や考え方に着目し、科学の楽しさを実感しながら科学への理解を深める方法について、実技も含めながら具体的な講義を進めます。
子どもの声を聴く	鈴木 法子 (乳幼児教育)	子どもは大人と異なる見方で世界を理解し、周囲の環境に主体的に関わっています。地域の公園の環境に対する子どもの理解を通して、子どもと大人の理解の相違、子どもの感性の豊かさ・奥深さについて考えてみましょう。
What is History? ー考える社会科ー	鈴木 円 (社会科教育)	最近の社会科では「考える」ことが重視されています。イギリスの小学校の歴史単元“What is History?”の教材を用いて、暗記科目でない歴史の可能性を探ります。歴史に対する考え方が変わります。
幼児期の特別支援教育 (Special Needs Education)における 「Special」な「needs」とは?	田尻由起 (特別支援教育・保育)	昨今、様々なところで「特別支援教育」という言葉を耳にしますが、何が「特別」な「支援」なのか、その対象は誰であるのか、ということは実はあまり知られていません。また小学校以降と何が違うのでしょうか。そこで特に幼児期に特化した「特別支援教育(保育)」について一緒に考えてみたいと思います。
体育は何を学ぶ教科なのか?	田島 宏一 (体育科教育学)	「何のために体育の授業があるのか?」と問うと、「体力を高めるため」、「健康のため」という答えをよく耳にします。でも、体育科がめざしているのは本当にそれだけでしょうか。運動への意欲も運動能力も二極化が進む今、あらためて体育科が何をめざすのかを一緒に考えてみましょう。
日本・文化・ことば	豊田 千明 (日本文学)	さまざまなものを例にあげながら、ことばの背景にある文化について考えていきます。アジアの中でも独自の文化を形成した日本という国についても考えます。
幼児の言葉の世界 ～おはなし・絵本を通して～	ドー小山 祥子 (幼児教育学)	子どもは絵本が大好きです。「もう一回よんで!」と何度もせがみ、興味津々のまなざしでお話の世界にぐいぐい入っていきます。絵本をはじめとする視聴覚教材に触れ、その魅力と幼児の言葉の世界を一緒に探ってみましょう。
比べてわかるヒトらしさ ーチンパンジーにもできること、 ヒトにしかできないことー	中村 徳子 (比較発達心理学)	ヒトにしかできないことって何だと思いませんか?チンパンジーは系統発生的にみてヒトにもっとも近縁な種です。チンパンジーの赤ちゃんヒトの赤ちゃんの発達を比べることで、ヒトに固有な知性を探ってみましょう。
日本画と景色文化	早川 陽 (日本画・美術教育)	絵画として描かれてきた景色とは何か。風景画と山水画の揺れから表れた日本の景色の特徴について明らかにします。また造形・図画工作・美術教育が学校の授業にあることの意味、生活と美術の関係についても身近な視点から解き明かします。
テクノロジーは私たちの学びを変えるのか?	森 秀樹 (教育工学)	私たちはテクノロジーに囲まれながら日々生活をしています。小中学校では児童生徒1人1台の情報端末が整備され、テクノロジーの活用が急速に進んできました。またChatGPTをはじめとする対話型AIなど、新しいテクノロジーも次々と生まれています。テクノロジーは私たちの学び方を変えるのでしょうか?教育でのテクノロジー活用の歴史をヒントに考えていきます。

「出張講義概要一覧」(現代教養学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
日本の教育制度の七不思議 ー諸外国との比較を踏まえー	シム チュン・キャット (教育社会学)	「他を知り、己を知る」という言葉のように、自国をより知るためには他国との比較が重要です。この講義では、諸外国との比較を通じて日本の教育制度の特徴への理解を深めることを目指します。
女子大学は必要なのか？	シム チュン・キャット (教育社会学)	欧米社会では女子大学の存在が薄れつつある中、日本では全大学数の1割弱を女子大学が占めているのはなぜでしょうか。女子大学の存在意義について生徒たちと議論を行います。
あなたは占いを信じますか	シム チュン・キャット (教育社会学)	宗教心が薄い日本人でも占いなら信じるのはなぜなのか、そもそも占いと宗教はどう違うのか、一方で世界中の多くの人々が神様の存在を信じている理由は何なのか、グローバルを語る前にまず宗教について考えませんか。
住みたい街ポートランドと東京	鶴田 佳子 (建築・都市計画)	全米一住みたい街と注目されているアメリカ西海岸オレゴン州ポートランド。豊かな都市文化や生活空間を通して東京と比較します。住む場所としての都市の魅力と課題は何かを考えていきます。
メディアから考える原爆	八木 良広 (社会学・オーラルヒストリー研究)	原爆は過去の出来事であり、現在の私たちにとって関係のないことでしょうか。文学や演劇、漫画、TV、映画等のメディアの中で描かれてきた原爆の捉えられ方を紐解きながら、現代社会における原爆について考えます。
つながりを科学する ースマホ・SNSと人間関係ー	天笠 邦一 (メディア論)	スマートフォンが普及し、SNSの利用が容易になったことで私たちは他人とつながりやすくなりました。この授業では、その「つながり」の力と限界について学術的な視点から再考し、今後の社会のあり方を考えます。
「伝わる」動画を撮るテクニック	村井 明日香 (メディア研究)	皆さんは、スマホなどで撮影する動画に、文章と同じように「文法」があることを知っていますか？この授業では、学習活動やビジネスなど様々な場面で活用できる、より「伝わる」動画の基本文法について講義します。
「地図のデータ」を活用する社会	相 尚寿 (空間情報科学)	みなさんは、地図アプリで最寄りの店舗が検索できることや雨雲の接近を通知されることの仕組みを考えたことはありますか？位置情報や空間データをキーワードに、観光、交通、防災など、社会での活用例を紹介します。
文学作品の映画化 -川端康成「伊豆の踊子」は 社会に何をもたらしたのか-	福田 淳子 (日本文学：近現代)	ノーベル文学賞受賞作家の川端康成作品は、国内外で50作近く映画化されています。文学はエンターテインメントとして社会にどのように組み込まれてきたのか、6度の映画化がある「伊豆の踊子」を例に考察します。
デジタル時代における文化の変容とその意義	福田 淳子 (日本文学：近現代)	進化を続けるデジタル化社会において、日本における文化はどのように変化しているのか、日本の伝統芸能や文学作品のアダプテーションを通して、具体的な内容とその意義について考えてみましょう。
グローバル社会がもたらす 「食」の変化	粕谷 美砂子 (生活経営学)	「せたがやそだち」の野菜から世界の食をとりまく状況まで、地産地消、六次産業化、フード・マイレージ、エシカル消費、ハラールなどを題材にして、グローバル社会と食、農・環境の関わりについて考えてみましょう。
たかが服、されど服。	粕谷 美砂子 (生活経営学)	なぜその服を選びコーディネートしたの？これを「使用価値」と「記号価値」の消費社会論やモノがなぜ消費されているか、消費が生み出す不平等の視点から捉え、消費をめぐる価値観、行動様式について考えます。
「生きる力」を高める社会とは？	木村 美也子 (公衆衛生学・家族社会学)	困難に直面した時に、周囲の人の助けを借りてうまく対処できる人(「生きる力」の高い人)ほどストレスに強く、健康だといわれています。どのような社会が皆さんの生きる力を高めるのかを一緒に考えましょう。
なぜ、社会には「居場所」が必要なのか。	古市 太郎 (地域社会学)	一人で居ることの心地よさがある一方、一人で居ることから生じる不安もあります。そして、現代は、孤立が進む社会です。「居場所」をキーワードにして、現代社会における「つながり」について考えていきたい。
「ドラえもん思考」から学ぶ経営社会学	見山 謙一郎 (経営社会学)	「なぜ？」、「誰のため？」という「ドラえもん思考」から、環境問題、地方の過疎化、貧困問題など様々な社会課題を理解し、ビジネス的なアプローチによる課題解決型の取り組みを、皆さんと一緒に考えていきます。
なぜ、日本では大人が たくさんマンガを読むのか？	杉本 章吾 (表象文化論)	なぜ、日本ではこれほど大人になっても多くの人たちがマンガを読み続けるようになったのか。戦後の人口動態やメディア環境の変化、青年文化の成立など、様々な社会的・文化的文脈からその要因を探っていきます。
良い人間関係とはどのような関係か	鳥越 信吾 (社会理論)	良い人間関係とはどのような関係でしょうか。そしてそれはどうすれば築けるのでしょうか。本講義では、社会学者たちの考えを参考にしながら、良い人間関係とはどのようなものかということを考えていきます。
なぜ今、「SDGs」なのか	見山 謙一郎 (経営社会学)	SDGsを理解するためには「なぜ？」、「誰のために？」をまず理解する必要があります。そして、このことが理解できた先に、SDGsの理念「誰一人取り残さない」の真の意味に気づくことができると思います。

「出張講義概要一覧」(環境デザイン学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
あたらしい建物	金尾 朗 (建築計画・都市計画)	個性やオリジナリティ、地域の個性などが求められている中、デザイナーがどのように新しい建物を考え、想像しているかについて実例を見ながら考えていきます。
都市とオープンスペース	金子 友美 (建築計画・住居計画)	図と地の関係から「建物を建てる」とことと「外部空間をつくる」ということを考えます。世界各地の広場や日本のオープンスペースの事例を紹介します。
1/1ワークショップのはなし	田村 圭介 (建築計画・意匠)	原寸大で小さいけれども人が利用できる構築物を作ることを目標に、毎年1/1ワークショップを学生と10年続けてきました。10作品の中には雑誌に掲載していただいたり、受賞したものもありました。このワークショップに参加した卒業生はいま建設業界で活躍しています。学生たちのモノづくり格闘のお話です。
建築ってなんだろう	棚橋玄 (建築設計)	私たちの暮らしのなかに、常に建築は存在しています。あらためて建築って何だろう。人の居場所のはじまりという観点から、様々な事例を参照しつつ考察していきます。
室内環境と健康・快適	堤 仁美 (建築環境学)	現代社会において、私たちは一日のほとんどを室内で過ごしています。そのため、知らず知らずのうちに室内の環境からの影響を受けています。本講座では、室内環境と人間の健康性や快適性の関係について解説します。
建築と都市の歴史	戸田 穰 (建築史)	私たちの暮らす街には多くの建物がたっています。普段、それらひとつひとつの存在を意識することはあまりありません。しかし、建物はひとたび建設されれば、長くそこに立ち続けます。そのひとつひとつの建物の物語を通じて、都市の成り立ちや、わたしたちの歴史を紐解きます。
三匹の子豚のおうち	中山 栄子 (材料学・環境科学)	私たちの住まいは"何で" "どのように"作られているのでしょうか？ 三匹の子豚さんのストーリーをお借りして、風土や文化に根差した住まいについて、一緒に考えてみましょう。(環境科学分野：「文学作品に学ぶ環境科学」「PM2.5」といったテーマでもお話は可能です。)
すまいと生活 ～子ども部屋を考える～	番場 美恵子 (住生活学)	幼児、小学生、中学生、高校生…同じ子どもでも、成長段階で必要なものは変化し、当然求められる子ども部屋も異なります。その実情とあるべきカタチをみていきましょう。
建築に潜む力の流れを垣間見る	森部 康司 (建築構造・構造設計)	近年、ファッションやCMの背景として、建築家のデザインした美しい建物が取り上げられることが増えてきました。そうした建物では一見すると特徴的な外観やインテリアにばかりに目が行きがちですが、その裏には厳格な力学の世界が潜んでいます。そんな厳格の世界の一端を解説します。
パッケージデザインの役割	工藤陽介 (プロダクトデザイン)	店でも、オンライン販売でも、売られているほとんどの商品はパッケージに入っています。パッケージをデザインする視点から見てみると買う立場とは違った発見がたくさんあることお話しします。
モノのカタチの不思議	橋 倫央 (プロダクトデザイン)	国民椅子といっても過言ではない学校椅子を解体し、デザインの視点で素材、部品、形状、加工、設計をとらえ直していきます。日常生活に溶け込んでいるありふれた製品を通じ良いデザインについて解説します。
「デザイン・ピフォア・アフター」	中田 士郎 (プロダクトデザイン)	現代の生活の中には様々な問題(社会的、人為的、物理的、身体的…)があります。それらの解決方法のひとつがデザインです。数々の事例を解説し、ピフォア・アフターでの変化にデザインがどう関わったかを考察していきます。
紙とデザイン	桃園 靖子 (プロダクトデザイン)	私たちの生活の中には、とてもたくさんの紙が存在します。紙一枚がデザインと出会うと、どんな可能性を纏うことができるのでしょうか。目で感じ、手で触れながら紙のプロダクトについて考えます。
社会を少しよくする 小さなもの	三星 安澄 (プロダクトデザイン)	プロダクトには、それが世の中にあることで、社会を少しよく変化させる力があります。この授業ではそういった事例を紹介して、デザインがもつ影響力、また日々に対するデザイナーの考え方などをお話したいと思います。
パッケージの解剖	工藤 陽介 (プロダクトデザイン)	商品を買うとほとんどはパッケージに入っています。パッケージを専門に作っている人や会社もあるほどパッケージは社会に必要なものなのです。パッケージがどうなっているのか解剖して探ってみましょう。
ファッションが生まれるまで —アパレルの企画・生産—	石垣 理子 (被服構成学・アパレルデザイン)	人々の生活を豊かに彩るファッションの中心にある衣服。シーズンごとに人を魅惑する新しいスタイル。これらはどのように生み出されてみなさんの手に渡るのでしょうか？アパレル(既製服)の企画、生産、販売の流れを追いながら、ファッションビジネスの一端を覗いてみませんか？
おしゃれの社会学 —ジブリとファッション—	菊田琢也 (ファッション論・ファッション史)	「おしゃれ」とはなんでしょう？ スタジオジブリの登場人物たちの装いを例に、私たちが服を着て社会生活を送る理由、あるいはおしゃれをしたいと思う心理についてひも解きます。
テキスタイルとデザイン	下村 久美子 (被服整理学・染織)	日本の伝統的なテキスタイルの事例をいくつか取り上げて紹介します。私たちが着用している衣服生地とのデザインと染色について考えてみましょう。例えば型染はその技法の制約がデザインに活かされています。
アイスマンの装い	角田 由美子 (被服造形科学)	アイスマンは、1991年アルプスの氷河から発見された5300年前のミイラです。この男性は、革靴や帽子、外套、ベルトなど様々な革製品を身につけていました。これらの革製品が、5300年以上も使われ続けている理由を考えてみましょう。

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
衣服とデザイン	國時 誠 (ファッションデザイン・ コスチュームデザイン)	「服のデザイン」と聞いて何を思い浮かべますか？どんな服にもその服になるための出発点があり、衣服の成り立ちを考えることはデザインのはじめの一步です。いくつかの事例を読み解きながら「デザインすること」を追体験してみましょう。
エネルギーとデザインと社会課題	オオニシ タクヤ (エネルギーデザイン)	世界には未だ電気の無い地域が多く残されています。エネルギーと産業、貧困、教育の問題は互いに深い関係にあります。この解決困難な社会課題に対し、タイの現地大学と共に行っているエネルギー支援プロジェクトを紹介します。
メディアとデザイン	鳥海 希世子 (メディア論)	私たちの日常は多様なメディアで溢れています。新聞やテレビ、スマートフォンからSNSまで、私たちは当然のように複合的なメディア環境のなかに暮らしています。この授業では、まずその当たり前さをふり返り、メディアと私たち、そして社会との関係性について考えます。
デザイン・デザイン	藤澤 忠盛 (デザイン構想・意匠設計)	数多くのスライド・映像を使い現代デザインをユニークに紹介します。ベルボトムのジーンズはなぜ裾が広がっているの？ボカリスウェットのパッケージデザインはなぜ青色なの？国旗の色の意味は何？パリコレの洋服は本当にいいデザインなの？未来の車はどんな車？建築家はなぜ変わった建物を建てるの？などデザインの謎と真相に迫ります。
地球温暖化と再生可能エネルギー	桐山 恵理子 (エネルギー・環境デザイン)	皆さんが使う電気を発電する時にCO2を出さない再生可能エネルギーの活用は、地球温暖化対策として重要です。地球温暖化対策として地域に導入された再生可能エネルギーの具体的な事例をご紹介します。そして再生可能エネルギーが導入されることで、地域社会とそこに住む人々と自然環境がどのように変化していくのか、イノベーションは起こるのか、一緒に考えてみましょう。
日常の観察 -「猫よけペットボトル」編-	長井 優衣 (情報表現・造形表現)	日常におけるとるにたらない気づきや違和感を観察してみましょう。路地で見かける水の詰まったペットボトル、通称「猫よけペットボトル」を例に、そこから見えてくる人々の生活、文化、多様な意味作用などを紐解いていきます。

「出張講義概要一覧」(健康デザイン学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
腸と肌の不思議な関係	作田 智洋 (皮膚科学・食品機能学)	体の中にある腸と体の外側を覆っている皮膚(肌)、実は構造やはたらきで似ている点が多くあります。さらに、腸がダメージを受けると、肌も影響を受けること等について、わかりやすくお話しします。
マグネシウムを中心としたミネラル栄養	池田 尚子 (臨床栄養学)	日本を含め先進諸国ではマグネシウム(Mg)摂取不足が問題となっている。Mg欠乏は軽度の炎症や酸化ストレスが生じ、慢性のMg欠乏は心血管疾患、2型糖尿病、慢性腎疾患などの発症と関連があるとされている。そこでMgを中心としたミネラル栄養に関する基礎的研究を紹介する。
高校生のための「スポーツと栄養」	小川 睦美 (栄養学)	成長期の皆さんの身体を作るスポーツと栄養について考えてみましょう。
ダイエットと運動を科学する	白川 哉子 (健康科学)	ダイエットになぜ運動が必要であるかを、運動による身体変化をもとに考える。健康的な身体と運動との関係を理解し、ダイエットになぜ運動が必要か考えましょう。
病気と栄養	花香 博美 (医化学・分子生物学)	病気をしたとき、どのような食事をとればいいのでしょうか？医学と栄養がどのように結びつくのか、研究医の視点からお話しします。
食事を設計してみよう	不破 眞佐子 (給食運営論)	大切な人への食事を考えてあげたい！でも、相手に喜んでもらえるにはどうやって考えたらよいのでしょうか？献立作成の時に、栄養士が工夫している点を一緒に考えてみましょう。
ヨーグルトの科学	村松 朱喜 (食品科学・食品衛生学)	ヨーグルトには乳酸菌が多く含まれていて、腸内フローラを整えるためにもおすすめの食品です。乳酸菌にも色々な種類があり、美味しさもそれぞれです。授業を通して、発酵の科学を学んで健やかな毎日を探究しましょう。
巧みな身体運動の科学	山中 健太郎 (身体教育学)	ヒトは様々な身体運動を巧みに行うことができます。歩いたり、箸を使ったり、といった運動をふだん何気なく行っていますが、これらは長い年月の学習によって身につけたものです。こうした身体運動を巧みに行うメカニズムと、そこにうまい・ヘタが生じるわけを考えてみたいと思います。
運動と健康	山中 健太郎 (身体教育学)	健康の維持増進のために運動しましょう」とよく言われますが、どのような運動をどのくらい行えばよいのでしょうか？運動による身体への様々な影響からこの問題を考えてみます。
ストレスと疲労の栄養学	渡辺 睦行 (食品機能学)	受験勉強、部活、人間関係などなど、ストレスや疲労を全く感じることなく生きていくことはとても難しいことです。実は、ストレスと疲労は似ているようで、発生の意義もメカニズムも全く異なるものなのです。この講義では、栄養学や分子生物学の視点からストレスや疲労との向き合い方について解説したいと思います。
食事と環境と健康	黒谷佳代 (栄養指導論・公衆栄養学)	「バランスの良い食事は健康に良い」ですが、バランスの良い食事を摂るための環境づくりも大切です。食事と環境の両面から、健康を考えてみましょう。

「出張講義概要一覧」(管理栄養学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
食品の構造と機能	伊藤 美香 (食品学・機器分析)	電子顕微鏡は高い分解能を持ち、光学顕微鏡ではできない高倍率での観察が可能となります。また、立体構造の観察に特化している走査型電子顕微鏡では、食品のミクロの構造を立体的に観察することが可能となります。このような食品のミクロ構造を示し、それが及ぼす食感や調理上の機能について考察します。
酸化ストレスとタンパク質	川崎 広明 (生化学)	酸素は体を傷つける凶器(酸化ストレス)にもなり、タンパク質を傷つけて病気の発症などにつながるということが知られています。本講義では酸化ストレスによるタンパク質傷害について、最新の研究成果も交えて解説します。
「おいしさ」を決める要因	佐川 敦子 (調理科学・給食経営管理)	私たちが感じる「おいしさ」とは、どのような要因によって影響をうけるのか? 「おいしさ」を決める要因には、食べ物そのものの状態(味の他にも温度、香り、音、外観、テクスチャー等)や食べる人の状態(喜怒哀楽の感情、食欲状態、食文化・)など様々な要因があることを紹介します。
生活習慣病と食生活	清水 史子 (臨床栄養学)	栄養の偏りが病気の原因や治癒を遅らせる原因になることがあります。肥満症や糖尿病などの生活習慣病が増加する一方で、無理なダイエットに起因する貧血や低栄養なども問題となっています。そこで、本講義は健康と食生活について、身近な話題を中心に解説します。
病院での食事の現状について	調所 勝弘 (臨床栄養学)	自炊から始まった病院の食事は現在、医療の一環として提供され、患者の病状に応じた栄養量を与え、質の向上と患者サービスの改善を目指しています。このように供される病院の食事の現状を解説します。
腎疾患患者における食事療法	中西 員茂 (医学・腎・高血圧・透析療法)	腎疾患患者における食事療法の重要性について述べます。食塩制限の高血圧・循環器疾患・腎疾患における重要性は周知のごとくであるが、その方法について詳細に述べます。また、慢性期の腎疾患・透析患者におけるリン制限の重要性は、健康者のアンチエイジングにもつながり、興味深い分野です。この点について最新の研究結果も紹介しながら述べます。
記憶とつきあう： 体の中のマルチタレントプレーヤーグルタミン酸	林 真理子 (栄養生化学)	グルタミン酸は、うま味物質であり、タンパク質を構成する20種のアミノ酸の一つであり、神経伝達と記憶の形成に関わる神経伝達物質でもあります。私たちが食べたものが体の中でどう活躍しているのか、私たちの学習生活でどう生かされているのか、その一端をのぞいてみましょう。
学校給食と食育	星玲奈 (栄養教育・学校給食)	日本の学校給食は安価でおいしく、栄養バランスのよい食事を提供していることが世界にも知られています。学校給食の話と共に、栄養教諭配置によって子どもたちの食育がどのように変化してきたのかを解説します。
病原微生物と食中毒	梶田 和彌 (微生物学)	現在問題になりやすい食中毒や実際に起こった食中毒事件を中心に、原因微生物の特徴を踏まえた食品管理の問題点や食中毒の予防方法について解説します。
飲み物の味と飲み込みやすさ	三浦 裕 (食品加工学・食品学)	高齢化社会を迎えるなかで、誤嚥しないように飲み物を飲むことは重要です。飲料の味や温度等の条件により飲み込みやすくなるのが解ってきました。これらについて解説します。
ご飯のすすめ	横塚 昌子 (栄養学)	日本人の主食は米です。米は炊いて「ご飯」として食べます。「ご飯」を食べるとどのような味がして、消化されると体内でどのように変化していくのかを探ります。

「出張講義概要一覧」(食安全マネジメント学科)

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
水を知ろう	秋山 久美子 (食品化学)	私たちにとって大切な水。その水について知っていますか? 水の重要性、種類(硬度など)、料理などへの適した用い方等について勉強していきましょう。
お金に振りまわされない人生を送るためには?	青木 美保 (消費者経済論)	ちまちました節約術ではなく、大きな収入と支出の基本的な考え方・知識・知恵を教えます。
食行動・心理をビジネスに活かす	清野 誠喜 (フードシステム論・食料経済学)	スイカは何曜日によく売れる? 消費者の食をめぐる行動・心理から、消費者との“コミュニケーション”のあり方を考えます。
フードテックと食料問題	小泉 美和子 (生理学・新規食品・食品安全 リスク評価)	食の未来を担うフードテックという技術革新が進んでいます。新しい食品や技術が求められる背景に食料問題など地球規模の課題があることを考えてみましょう。
食物アレルギーを知る	近藤 一成 (食品安全)	食物アレルギー、どのようにして発症するの、発症する人、発症しない人いるのはなぜ、などについて学ぼう。
生活習慣病と睡眠	地家 真紀 (公衆衛生学)	毎日とっている睡眠が生活習慣病と関連します。睡眠について考え直してみましょう。
食品の表示を讀もう	高尾 哲也 (食品加工学・食品科学)	食品に書かれている表示は、多くの事を私達に教えてくれます。ともすれば、包装に書かれているイメージで商品を選択してしましますが、その前に表示をチェックしてみましょう。